

にぎやか家族 第1号の プレゼント



本年4月1日より、関市で第3子以降の子どもを出産された方に祝品を贈る「にぎやか家族応援祝品支給事業」が始まり、申請者第1号の長屋文彰さん(倉知) 家族に、尾藤市長から商品券が贈呈されました。

4月9日に三男の泰志ちゃんが生まれ、支給の対象に。長男周一君、次男慶二郎君と市役所を訪れた母親の舞子さんは「本当に嬉しい。兄弟仲良く助けて、優しく元気な子に育ててほしい」と話しました。

あんな事、こんな事

関市イメージキャラクター
「関*はもみん」



青空・田んぼを教室に

「土に触りたい」「緑を育ててみたい」という夢をかなえる上之保ほほえみ農園。上之保グリーンツーリズム協議会が毎年、地域住民の指導により種まき・植付け・収穫・草刈りなどの農山村体験ができる事業を運営しています。この日、県内外から訪れた参加者約40人が手作業で田植えを体験。全員泥だらけになりながら、秋の収穫を楽しみに一生懸命作業しました。

昔話の舞台をウォーキング

武儀地域に伝わる60を超える昔話の中に出てくる土地や場所をつないだハイキングコースが地元「武儀のむかし話伝説ロマン・ウォークの会」の皆さんによって作られました。今回初めてそのウォーキング大会が開かれ、同会会員がガイドとなって県内外200人の参加者とともに、道の駅平成から高澤観音まで約9キロのコースを巡り、さわやかな汗を流しました。





ゴルフ場巡って観光PR

市内6つのゴルフ場を巡るスタンプラリー「ごらり」がスタートしました。異なったゴルフ場でプレーするごとにスタンプを押印。3つ以上集めると、関市観光協会が提供する市の包丁や特産品、各ゴルフ場が提供するゴルフグッズなどが当たるものです。県内外からのゴルフ客を観光のターゲットに市の魅力をPRし、より多くのゴルファーに足を運んでいただき、観光振興につなげていきます。

楽しく笑顔で G W満喫

5月恒例の「ゴールデンウイーク・スペシャル 2011」が開かれ、多彩な催しを楽しむ多くの親子連れでにぎわいました。キッズダンスや体験レッスンが人気を集めたほか、フラフープやジャグリングなどの大道芸ショーが披露されました。竹細工やツイストパン作りなど親子での体験コーナーに長蛇の列ができ、参加者は「遠出しなくても、近くでこんな楽しく1日が過ごせて嬉しい」とイベントを満喫した様子でした。



筆の走り 水の流れるように

墨の芸術作品を鑑賞し、その表現の素晴らしさを感じて、自分なりの思いで墨像画づくりに挑戦する授業が旭ヶ丘小学校でありました。児童は墨を垂らしたり、にじませたりしながら、のびのび筆を動かしました。また全員で、廊下いっぱい50メートルの和紙を広げて、「水」の流れをイメージして描き込み、子どもたちの豊かな発想と感性による作品が出来上がりました。

私たち 国体を応援します

関青年会議所は、市内で開催されるぎふ清流国体・ぎふ清流大会と競技別リハーサル大会の趣旨に賛同し、大会への機運を高めるため、横断幕1本とのぼり旗3本を制作しました。今後、市や同所が主催する行事などで掲示して、国体PRに努めます。喜びと感動を共有できる魅力ある国体の実現に向けて、市民の先頭に立って活躍していただきます。



こぼれ話



「星雲のかげの夜も 小瀬の鶺鴒舟に火は絶えず 燃え上がれな赤々と 私たちのかがり火は・・・♪」これは、私の母校の校歌の一節です。今年も一千有余年の歴史を誇る伝統の小瀬鶺鴒が開幕しました。私は、社会人になるまで鶺鴒を見たことがありませんでしたが、市は今年から市内の小学5年生を鶺鴒観覧に招待するほか、市内大学生に対して観覧料を割りきする制度を開始しました。日が暮れて川に暗闇が訪れると、静かに船がこぎ出され、鶺鴒船と並走する屋

形船から鶺鴒匠の一挙手一投足が間近で見られ、鶺鴒が鮎を捕るその姿はとても風情があります。匠の技とその魅力を若い世代に体感し、親しんでもらいたいものです。

校歌を懐かしく思い出しながら、子どもたちはどんな感想を持つだろうと取材に伺う予定でしたが、今年は鶺鴒開きから3日間、雨天で残念ながら延期に。児童が見た鶺鴒が心に残り、将来大人になった時、関市の自慢といえば「鶺鴒」と誇らしく答えてくれそうな気がします。10月15日まで、川面に織りなす古典絵巻をぜひ大人の皆さんにもお楽しみいただけたらと思っています。